

第1回まちづくり構想審議会 議事概要

令和3年8月3日（火）にまちづくり構想審議会（第1回）を開催し、「(仮称)まちづくり 福知山」の策定について諮問等を行いました。

第1回審議会の議事概要は別添のとおりです。



第1回まちづくり構想審議会 議事概要

日時 令和3年8月3日(水)
午後1時30分～午後2時45分
場所 市民交流プラザ・市民交流スペース

■出席者

【審議会委員】

別紙名簿のとおり

【市】

大橋市長、田村市長公室長ほか事務局

■議事概要

1 市長あいさつ

本日、第1回福知山市まちづくり構想審議会を開催しましたところ、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席をいただき誠にありがとうございます。

また皆様には、本市の将来のまちづくりの指針となる「(仮称)まちづくり構想 福知山」の策定に係り、審議会委員への就任をお願いいたしましたところ、快く御承諾を賜りましたこと、重ねて厚く御礼申し上げます。

はじめに、皆様御承知の通り、昨年来、新型コロナウイルスが世界的に猛威をふるい、私たちの日常生活に大きな影響をあたえてまいりました。本日もお越しの皆様も大変御苦労されていると拝察いたします。

本市といたしましても、引き続き、コロナ対策を最重要課題に掲げ、市民生活と地域経済の両面から、様々な対策に取り組んでまいりますので、何卒、御理解いただきますよう、お願い申し上げます。

さて、本市におきましては、昨年度と本年度の2か年で、市民の皆様に参加を頂き、新たな「まちづくり構想」を策定することとしております。昨年12月には、無作為で選んだ市民約100名で市民懇談会を設置し、現在までに4回の懇談会を開催するなかで、様々な御意見をいただけてきたところです。

これらの意見を参考にしながら、今からおよそ20年後の2040年の福知山のあり方を具体的に考える中で、市民と共に作り上げていく、市民と共に進めていくまちづくりの構想について鋭意、検討を進めているところでございます。

このような中、まちづくりの様々な分野で、御活躍を頂いている皆様から、経験や知見等に基づいた貴重な御意見をいただくことにより、より充実した構想となることを願っております。

委員の皆様には、日ごろ感じておられることや、本市の将来についての思いなどの御意見を賜り、「新しい時代の福知山」にふさわしい構想づくりと一緒に進めていただきたいと思います。

結びに、暑い日が続きますが、新型コロナウイルスへの感染予防をはじめ、体調には十分御注意いただき、今後とも御活躍をいただきますよう御祈念申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。

2 まちづくり構想審議会規則について

- ・事務局より資料「福知山市まちづくり構想審議会規則」により説明

3 会長及び副会長の選出について

- ・委員より選出にあたり事務局の提案を求める意見があったため、会長に渋谷節子委員(福知山公立大学教授)、副会長に白石克孝委員(龍谷大学副学長)を提案し、承認された。

- ・会長、副会長より就任あいさつ

(渋谷会長)

福知山市の発展に少しでも力になればと思っています。これからは新しい価値の創造が求められており、みなさんの力を借りて策定を進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(白石副会長)

以前から福知山市にはまちづくりのプロジェクトなどで直接的、間接的に関わってきたところであるが、新型コロナウイルス感染症の影響でいろいろな取組が止まったり、再設計したりする必要がある状況となっていた中で、今後どのように福知山市との関わりを持つか検討している中で審議会への話をいただいた。自分のできる限り尽力してまいりたいと思うので、これからよろしくお願いいたします。

4 諮問

- ・市長より渋谷会長、白石副会長へ諮問を行った。

5 協議・報告

(1) 分科会について

- ・分科会の設置

委員より事務局からの提案を求める意見があったため、事務局より以下の部会の設置を提案し、承認された。

第1分科会	安心して快適に暮らせるまち
第2分科会	子育てのしやすさと学びのまち
第3分科会	健康で生きがいのあるまち
第4分科会	産業振興と発信力のある魅力あふれるまち

- ・委員の所属

規則第5条第3項に基づき、会長の指名により各分科会に所属する委員を決定した。(別紙分科会別名簿参照)

- ・分科会長・副分科会長の選任

規則第5条第4項及び第5項に基づき、会長が下記のとおり分科会長、副分科会長を指名した。

	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会
分科会長	仁張 衛 委員	夜久 豊基 委員	渋谷 節子 委員	白石 克孝 委員
副分科会長	石丸 雄康 委員	吉田 佐和子 委員	大野 森志 委員	杉山 俊輔 委員

(2) (仮称) まちづくり構想福知山策定の考え方、および全体像と長期ビジョンのイメージについて

・事務局より資料1、2に沿って説明

【質疑応答】

(委員)

2040年にあるべき姿を実現する上で、「外部環境の変化を考慮する」とは、具体的にどのようなことか。

(事務局)

人口減少、人口構造の変化を想定している。長寿命化やテクノロジーの発展、環境問題の深刻化などは市だけの問題ではないが、市においても大きな影響を受けるものと考えている。

(委員)

まちづくり構想審議会とすでに実施している市民懇談会はどのような関係となるのか。

(事務局)

市民懇談会では約100名の参加者により議論をいただいているが、それは産業や福祉などの分野の専門家という訳ではなく、無作為抽出による公募で選ばれた一般市民の方に参加いただいている。

そこで議論される内容に加えて、様々な分野で活動、活躍され、見識をお持ちの皆様の意見を踏まえて計画を策定してまいりたいと考えている。

(委員)

私の所属する第2分科会では、例えば2040年の小中学校の編成や人口規模に関する試算データなどがあれば議論しやすいのではないかと思うが、事務局から提供いただくことは可能か。

(事務局)

次回以降の分科会での議論において、必要なデータがあれば提供させていただきたいと思う。

(委員)

施策の構造について、理念、政策、施策まではまちづくり構想の中に位置付けて、事務事業については毎年度の予算で位置付けるという説明であったが、未来創造福知山でいう基本計画という部分は、まちづくり構想の中に位置づけられるものか確認したい。

未来創造福知山の基本計画では、具体的な事業名などが書き込まれているが、そうした部分がまちづくり構想に明記されないと、市民としては内容がわからないまま毎年度予算編成の中で事業が処理されるということになってしまうことを危惧している。

市民参画での構想策定は大いに賛成であるが、市の行政計画ではなくいわゆる公共計画

であるとの説明であった。しかし、行政計画の中には事業や施策が多数存在しており、その遂行により市民生活が守られているということがあると思うので、そこは非常に大事だと考えている。公共計画を策定する自治体も多くあるが、見ていると行政計画は行政計画として審議会の中でしっかりと議論を行って策定している。今回行政計画の部分がしっかりと作ることができるのか不安に感じている。

京都府の計画を見ると、政策分野や地域別など取組がすべて整理されており、これを読めば府の方向性は見えると思う。しっかりとした計画の位置づけがないと、市の基本構想に基づいて定めることとされている都市計画マスタープランが作れないなどの懸念がある。

(事務局)

1 点目、まちづくり構想に位置付けるのは施策以上となるが、施策ではしっかりとしたKPIを立てるなどにより、施策という目的を達成するための手段としての事務事業という点を強く意識して施策体系を組み立てていきたいと考えている。計画の中に事務事業レベルまで書き込むかどうかは現時点で確定できるものではないが、施策と事務事業の位置づけについては明確にしたいと思う。

2 点目の行政計画としての位置づけについては、今回の構想は3つのパートで構成を考えており、その中の施策体系の部分は行政計画としてしっかりと策定していきたいと考えている。

府計画やマスタープランとの関係については、意識しながら施策体系を作っていきたいと思っている。マスタープランは今年度策定予定であり、まちづくりや防災、福祉分野など幅広く計画に位置付けたものを担当部署で検討している。まちづくり構想において重複するものを作る必要はないと思っているので、ある分野においては都市計画マスタープランに預けるところもあるかもしれないが、総合的に見てしっかりと市の方向性を示せるよう、連携しながら策定していきたいと思っている。

(委員)

議論をしっかりと反映できるようにお願いしたい。あわせて、長期ビジョンの中で20年後を目標として大きな方向性を定めるためにペルソナという手法を用いているが、たった4人の内容で十分な議論ができるのかと感じる。

(事務局)

4人については、老若男女、仕事についても多様な形態とすることを意識した。しかし、それだけでは十分ではないと考えているので、ペルソナを起点として視点を広げ、社会的課題の抽出を行っている。さらに抽出すべき課題等があればぜひ今後の議論において御意見いただきたいと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

・資料3により事務局より説明

(質疑応答無し)

以上